

ゆび かいわばん 指さす会話板

より多くの方に嬉野を
楽しんでいただくために



嬉野市では、障がいの有無に関わらず、すべての方が社会生活や観光を楽しむことができる「ひとにやさしいまちづくり」に取り組んでいます。

高齢者や耳の不自由な方、これから増加が予想される中国や韓国など海外からのお客さまなどは、会話がバリアとなることがあります。そこで、その不安を少しでも軽くするツールとして、「指さす会話板」を作成いたしました。



「指さす会話板」の使い方

Step 1 ステッカーで「指さし会話板」があることをお知らせ



ステッカーは防水加工されています。入口など通りから見える所に貼って、「指さし会話板」があることを、お客さまにお知らせください。

「指さす会話板」の特徴

お客さまの不安を解消！

海外旅行をした際に、ちょっとした単語が分からないために、我慢してしまった経験はありませんか？

単語を指さすツールがあることで、耳の不自由な方や海外からの旅行者などの話せない不安を少しでも和らげることができます。

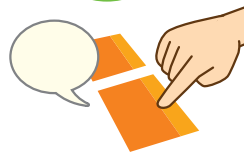
笑顔で 最初の出会いをスムーズに！

笑顔で「いらっしゃいませ」と言えば、言葉の意味は通じなくとも、歓迎の気持ちは伝わります。

とは言え、外国語が話せない不安から、その笑顔が引きつってしまう方もいらっしゃるでしょう。

たった1枚のシートで全ての会話ができるわけではありませんが、「指さす会話板」があることで、お迎えするみなさまの不安も軽くなって、笑顔をつくれます。

Step 2 お客さまに「指さし会話板」を差し出して、指さしていただく



会話でお困りのお客さまを見かけたら、笑顔で「どうぞお使いください」と「指さし会話板」をお渡しください。

お客さまが指さします。（病院版は例外です）

基本的に、お客さまが指さして意思を伝えるツールです。共通で使える単語もありますので、工夫してお使いください。

Step 3 お客さまをおもてなし

お客さまの要望が分かれば、あとは他のお客さま同様におもてなしください。筆談や身振りなども交えてお客さまとのコミュニケーションを楽しんでください。

もしもの時に

お客さまが体調を崩された時には、救急版を差し出して、病状の把握にお役立てください。救急車にも同じものがありますので、病状を伝えることで、今後の処置がスムーズです。

